



# 新章はじまる

## INDEX

イントロダクション  
時空を超えてつながる  
3つの物語 2

コラボストーリー開発秘話  
スペシャルインタビュー 18

CM制作の裏側 23

物語を彩る  
キャラクターたち 28

ゲームの舞台設定 39

あとがき 44





PUELLA MAGI MADOKA MAGICA

劇場版

魔法少女

★まどか★マギカ

【前編】始まりの物語／【後編】永遠の物語

キラプリンセスと魔法少女が時空を超えて出会い、  
新たな物語が

戦いを宿命づけられた少女  
交差する記憶、運命、そ



アケミ・ホムラ

女が時空を超えて出会い、  
動き始める。

たちに、世界は救えるか。  
して祈りとは――



時空を超えつつながら  
3つの物語

# 「世界を救うには、 あなたたちの力が必要なんです—」

『ファントム オブ キル』の世界に迷い込んだほむらとマミ。  
ほむらからメッセージを託され見滝原中学校に現れたティルフィング。  
ユグドラシルにワルブルギスの夜が襲いかかり、  
再び一つになった魔法少女たち、  
そしてキラプリンセスは最強の魔女に挑む…。

## EPISODE 01 | ファントム オブ キル 編



曉美 ほむら

魔法少女としての記憶を失っているが次第にまたかたちの存在を思い出す。



巴 マミ

戦いを感じながらもキラプリンセスとして生きているが、その残酷な運命を知り戸惑う。

「時を駆ける覚悟はある？  
…行って！  
またかたちに伝えて！」

「なんで、自分同士が  
殺し合うの…？」



ティルフィング

ワグネル教会に仕えるキラプリンセス。

キュゥペえ

キラプリンセスの戦いからさらに大きなエネルギーを獲得しようとしている。

「キラプリンセスが  
消滅する時、僕たちは  
膨大なエネルギーを  
手に入れるんだ」

「僕と契約して、  
魔法少女になってよ」

## EPISODE 02 | まどか☆マギカ 編



鹿目 まどか

魔法少女。自分がした願い事やほむら、マミの存在を忘れてしまっている。



美樹 さやか

またかともに使い魔からティルフィングを守る。

「ティルちゃん…  
夢で、よく会う人と  
似てるの」

「帰国子女に記憶喪失？  
キャラ立ち  
すぎじゃない？」

「あんな…この世界の  
人間じゃないんだろ？」



佐倉 杏子

ティルフィングが何かと戦い続けてることを察し、気にかけている。

## ワルブルギスの夜

ほむらとマミが迷い込むのと同時に  
ディメンションホールを通り、  
ユグドラシルの世界に入る。



## ディメンション ホール

2つの世界が交わる  
時空の特異点に  
出現したホール

## EPISODE 03 | ワルブルギス 編

ユグドラシル

見滝原市



# EPISODE 01 |

## ファントムオブキル編

### ユグドラシル



#### 1 プロローグ

空——どこまでも高いユグドラシルの空。

ほむらの夢の中、まどかとほむらがまるで現実世界の出来事のような会話をしている。

暁美ほむら「繰り返す。私は何度でも繰り返す。同じ時間を何度も巡り、たった一つの出口を探す。あなたを、絶望の運命から救い出す道を」

まどかが、ワルブルギスの夜と戦っている。

鹿目まどか「ほむらちゃん！」

ワルブルギスの夜の攻撃を受け、崩れ落ちるまどか。その光景を見ているほむら。

#### 2 花畑にて

夢から覚めると、どこからかほむらと呼ぶ声が聞こえてきた。その声の主は、デュリン。

デュリン「ほむら！大丈夫？」

どうやら今は戦闘中のようなのだ。ほむ

らが目を覚ますと、そこは見たこともない世界だった。

ティルフィング「打ち所が悪かったんでしょか？」

花畑に横たわったほむらを傍らで覗き込むデュリンとティルフィング。彼女たちはキラープリンセスと呼ばれる、戦うことを宿命づけられた存在。

暁美ほむら「あなたたちは……ここは……」

ほむらが2人を見て声を発しようとした時、突如異族と呼ばれる化物が目の前に現れ、ほむらに襲いかかってきた。あまりの突然の出来事に、あつげにとられる3人。

異族「グギギギギギギ」

獣の牙が襲いかかる寸前、ほむらの目の前に魔法の光が広がり、爆音が響き渡った。

巴マミ「ティロ・フィナーレ!!」

周囲を圧倒する爆音と衝撃に「掃された異族。現れた巴マミに救われたほむらたち。しかし、次々と迫り来る異族に立ち向かわなければならぬ。

デュリン「とにかく今はここを抜けなきゃ！」

ティルフィング「私が行きます！」

#### 3 平原にて

異族を退け、二呼吸入れているキラープリンセスたちとほむら。

巴マミ「この子が新人さん？随分調子が悪いみたいだけど……怪我でもしてるのかしら？」

ティルフィング「さっきの戦いで、記憶を失ったみたいなんです」

ほむらは起こっている状況を把握しようとして、マミとティルフィングの会話を聞く。

巴マミ「そう……私は巴マミ、あなたと同じキラープリンセスよ」

キラ……プリンセス？何かひっかかる言葉に、ほむらは頭を抱え苦しみ始めた……

暁美ほむら「魔法少女……キラープリンセス……」

デュリン「こりゃ重症だ。行こう、ほむら」

教会でほむらを休ませるため、歩き出すティルフィングたち。

#### 4 高原にて

暁美ほむら「それからしばらくしても、記憶を取り戻せない私は、ただ異族との戦いに明け暮れた。教会のため、キラープリンセスとしての使命を全うすることだけが、今の私にできる唯一の生き方だった。しかし、戦うたびに大きくなる違和感が、日々私を不安にさせていった……」

戦いに明け暮れ、何かを思い出そうと葛藤に苛まれているほむら。そんな彼女の周りの空気が張り詰め、魔女の結果が侵食していく。

暁美ほむら「何、これは……」

「……………」

彼女に頭に直接語りかけてくるかのような声が聞こえてくる……ほむらを強烈な頭痛が襲う。

暁美ほむら「くっ……」

その声をきっかけに、ほむらの脳裏に浮かび上がる記憶とも取れる数々のイメージ。徐々にほむらの記憶が鮮明

になってきた……

暁美ほむら「私は……魔法少女……隠れてないで、出てきたらどう？」

記憶を取り戻したほむらの前にキュウベえが現れる。

キュウベえ「気付かれていたか。で、どこまで思い出したんだい？」

暁美ほむら「……これは私たちの住む世界ではない……」

キュウベえ「さすが暁美ほむらだ」

暁美ほむら「どういふことなの？なぜ私たちは、ここに居るの？」

キュウベえ「さあ？それは君が一番よく知ってるんじゃないのかい？それに君は、根本を忘れている。一番大事なことをね」

去っていくキュウベえ。

#### 5 平原にて淘汰の戦い

巴マミ「なんで、自分同士が殺し合うの……」

そこには先ほどまで一緒にいたはずのティルフィングと、全く同じ顔かたちをしたティルフィングが殺し合っ

いるという異様な光景があった。嘔然とする仲間に囲まれながら、戦いに勝利したティルフィング。

ティルフィング「ちよっと手こずってしまいました」

巴ミ「あなたはどつちなの？私たちと一緒にいたティルフィングさんの？」

困惑するマミのそばで、デュリンはこの世界ではさも当たり前のことだと説明をする。

デュリン「同じ世界に自分は一人だけ。だからこそ自分を殺し、自分自身を補完する。それがキラプリンセスの背負った宿命なの。彼女たちは、自分自身と戦い続ける。永遠にね」

巴ミ「永遠に……」

永遠というワードを聞いた途端、マミの脳裏に異族ではなく、魔女と戦っているイメージが浮かんできた。強烈な頭痛に苛まれるマミ。心配するティルフィングたち。

巴ミ「……大丈夫。ちよっと……一人にしてくれない？」

空間が現れたんだ。君たち2人はこの世界に迷い込んだ。一時的に記憶が消えたのはこの副作用なのかもね」

マミと一緒にディメンションホールへ向かうほむら。

8 ディメンションホールを前にして――

ようやくたどり着いたほむらたち。しかし、ディメンションホールは消えかかっている。

キュウベえ「残念だったね。これじゃあ時空を移動できない。つまり君たちに、元の世界に戻る術はないってことだ」

曉美ほむら「……数日前は、まだここにあった……ってことね？」

キュウベえ「……」

ほむら、盾をかまえる。

巴ミ「どうする気なの？」

曉美ほむら「時を遡り、あなたを連れて、この世界を脱出する」

ほむら、盾を操作する。カチリと言う音がしたきり、何も起きない。

曉美ほむら「……どういうことなの？」

キュウベえ「当然さ。君はこの世界の

6 平原にてマミとほむら――

ほむらと同じような状況から、同じような頭痛が起き、魔女などの様々なイメージが現れたマミ。そこに、ほむらがやってきた。

曉美ほむら「思い出したのね」

巴ミ「ええ。でもね……最初から、なんとなくは気付いていたの。ここは私たちの世界じゃないって。だけど、ここでは私は一人じゃない。曉美さんや、ティルフィングさん、一緒に戦える仲間たちがいる。私の世界が別だとしても、キラプリンセスとして生きていくのも悪くないかなって思ったの……」

曉美ほむら「だけど……」

巴ミ「わかってる。彼女たちの宿命……まだ私は知らなかった。生きるために自分を殺すだなんて私には耐えられない。彼女たちは、魔法少女以上に過酷な運命に生きているのね」

曉美ほむら「私たちはどこから来たの？どこから覚えている？」

マミに問い詰めるほむら。まるで本当に思い出したいことが、根本にある

人間じゃないんだから――

曉美ほむら「………」

キュウベえ「この世界は、この世界の理の下で動いている」

キュウベえ「だから君自身がむやみに時間軸を創り直すことはできないんだ。この世界の人間なら別だけどね」

巴ミ「じゃあどうすればいいのよ！」

キュウベえ「君たちはこのまま、この世界で生きるしかないんだ」

巴ミ「ふざけないで！他にも方法はあるんでしょ！」

地面がかすかに揺れ始め、辺りに強大な結界が張られていく。

巴ミ「これって……」

曉美ほむら「ワルブルギスの夜！」

キュウベえ「この世界に迷い込んだのは君たちだけじゃない。君たちと同時に、ワルブルギスの夜もこの世界にやってきたんだ」

絶望的な状況の中、こちらの世界で出会ったティルフィングとデュリンが助けに訪れる。しかし、手を出させないほむらとマミ。

かのように。そんな時、どこからかあの仲間の声が聞こえてきた……。

鹿目まどか「ほむら……ちゃん」

全てを思い出したほむらとマミは、事の全てを知るであろうキュウベえの元へ急ぐ。

7 遺跡にて――

キュウベえ「さすが曉美ほむらだ。君たちはディメンションホールを通ってこの世界に来た。また、ディメンションホールを通れば、元の世界に戻るかもしれないよ」

やはり全てをキュウベえは知っていた。なぜ2人がこの世界にいるのか、そして、なぜ2人しかこの世界にいないのかを。「ディメンションホール」という聞いたことのないワードを聞き戸惑うほむら。

曉美ほむら「教えなさい。ディメンションホールって何？」

キュウベえ「この世界と君たちの世界を結ぶ時空の特異点にディメンションホールと呼ばれる2つの世界をつなぐ

9 ワルブルギスの夜――

ワルブルギスの夜に打ちのめされるマミとほむら。

巴ミ「やだ……死にたくない」

キュウベえ「戻ろうとしている。無理やりホールをこじ開ける気だ」

このままでは、こちらの世界だけではなく、ほむらたちの元の世界も崩壊してしまう。絶望的な状況の中、ほむらは時を駆ける盾を、一人の少女に向けて操作する。

曉美ほむら「ティルフィング。時を駆ける覚悟はある？……行つて！まどかたちに伝えて！」

……まどか☆マガカ編へ続く……



## EPISODE 02 |

### まどか☆マギカ編 見滝原市



#### 1 見滝原市 通学路

ここはまどか☆マギカの世界。見滝原市を歩いている一人の少女がいた。ティルフィング「見知らぬ街を、私はただ歩いていた。目的も、自分の名前も思い出せないまま」

不安そうに歩くティルフィングの前方を、まどかとさやかが歩いている。ティルフィング「あの子たち…どこか懐かしい…」

制服姿のティルフィングの脳裏に響くまどかの声。

鹿目まどか「あなたは行かないや！ほむらちゃんを助けてあげて！」

ティルフィング「私は…誰なの？」

場面は見滝原中学の教室へ。先生のご機嫌ナメな声が響く。男子生徒との会話の後、思い出したかのように転校生の紹介をする。

先生「じゃ、いらっしやい」

教室に入ってくるティルフィング。

先生「今日は皆さんに転校生を紹介します」

美樹さやか「うお！すごい美人。こ

になつてよ。もし契約を結んでくれたなら、君の願いをなんでも一つだけ叶えてあげるよ」

#### 3 魔女との戦い

意識を失ったティルフィングに、まどかが語りかける。

鹿目まどか「大丈夫？うなされてたけど。私は鹿目まどか。保健委員なの」

ティルフィングの顔を覗き込むまどか。

鹿目まどか「あなた、前にどこかで…」突然ドアが開き、さやかも保健室に入ってくる。

美樹さやか「お、ティルちゃんが目を覚ましたか。あたし、美樹さやか。よろしくね！」

目を覚ましたティルフィングと楽しそうに会話するまどかたち。しかし、周りの空気が突如張り詰める。これは魔女の気配。辺りは結界に侵食されていく。戸惑うティルフィングに語りかけるさやか。

美樹さやか「魔女が来るんだよ」

鹿目まどか「私たちは、魔法少女なの。大丈夫。絶対に私たちが守るから」

その姿を見て何かを感じながらも、何も言葉を発することができないティルフィング。まどかとさやかは魔女に向かい戦いを始めるのだった。

#### 4 キュウペえ再び現る

美樹さやか「使い魔だけなんて楽勝だ勝！」

無事に戦いを終えた3人の前に、キュウペえが颯爽と現れる。

キュウペえ「決意は固まったかい？」

またかという表情でキュウペえを見るさやか。

キュウペえ「彼女は選ばれたんだ。君たちのいい仲間になれるはずだよ」

困惑するティルフィング。さらにキュウペえが語りかける。

キュウペえ「思い出さなかったかい？まどかたちの戦いを見て」

唖然とするティルフィング。脳裏に浮かぶあの記憶…

鹿目まどか「あなたは行かないや！ほ

れが帰国子女ってヤツ？」

自己紹介するよう促されるティルフィングだが、言葉に詰まってしまふ。美樹さやか「帰国子女に記憶喪失？キャラ立ちすぎじゃん！」

突然ティルフィングは意識を失うのだった。

#### 2 キュウペえとの出会い

意識を失ったはずのティルフィング。見知らぬ広場に横たわっていると、目の前に赤い目をした真つ白な獣が現れた。

キュウペえ「僕の名前はキュウペえ。随分、困ってるようだね」

ティルフィング「ここはどこなんでしょう？」

記憶が戻らず戸惑うティルフィングにキュウペえは淡々と話を進める。

キュウペえ「君はいずれ全てを思い出す。そのためにここにいるんだから」

さらに戸惑うティルフィングにキュウペえが驚きの言葉を発する。

キュウペえ「僕と契約して、魔法少女

むらちゃんを助けてあげて！」

5 杏子とともに戦うティルフィング

迷い続けるティルフィングの前に、杏子が現れた。

佐倉杏子「よう、あなたが新入り候補かい？」

彼女も魔法少女と理解するティルフィング。しかし、杏子の突きつけた言葉はまどかとさやかとは違った。

佐倉杏子「あんた…この世界の人間じゃないんだろ？あんたにこびりついている戦いの匂いは、魔女のものとは違う」

杏子の言葉に対し、思いを吐き出すとするティルフィングだったが、まともな魔女の結果が現れた。現れる大群の魔女。多すぎる数の魔女に徐々に追い込まれていく杏子。その時…

ティルフィング「私も…戦います！」

ティルフィングの活躍によりなんと魔女を倒した2人。リングをかじりながら再び語り始めた。

佐倉杏子「魔法少女の戦いは、永遠だ。

「瞬間の幸福のために、あなたの永遠を捧げられるかい？」

「戦い“永遠”というワードを聞いた途端、ティルフィングの脳裏にはデュリンの姿が浮かび、苦しみ出す。

ティルフィング「くっ……うう……ソウル、ジエム？ 違う……これは……」

脳裏に浮かぶ戦いの記憶、キル姫。

ティルフィング「私は、ティルフィング。ラグナロク教会に仕える、キラプリンセス……戦っていた。どこか……遠い世界で……」

6 ほむら、ちゃん……？

記憶を取り戻しつつあるティルフィング。魔法少女の運命について語り合う。

ティルフィング「永遠に戦い続ける。その永遠ってなんだか想像がつかません。まどかさんは、その永遠と引き換えに、何を願ったんですか？」

ティルフィングの真実をついた問いに、言葉に詰まるまどかがいた。

鹿目まどか「あれ？ 私……私……」

を問い詰める。

鹿目まどか「ほむらちゃんの力なの？」キユウベえ「いや、もっと強大な力だ」

さらに話を進めるティルフィング。キラプリンセスの世界に突如現れたワルブルギスの夜のこと。デイメン

ションホールが現れ、ほむらとマミが迷い込んだことを。そして、覚悟を決めた表情でキユウベえに話しかける。

ティルフィング「私を……元の世界に戻してくれませんか？」

デイメンションホールがもう一度開けば2人は世界に戻れるかもしれない。祈るティルフィング。祈りに呼応して、体が輝き始めた。

9 契約

デイメンションホールが開く音が聞こえる。キユウベえの予想を超える力が働き、契約は不成立となった。

キユウベえ「願いは一部聞き入れられ、ホールは開いた。だけど、何者かがそれを邪魔しようとしている」

駆けつけるティルフィングとまどか

まどかの脳裏に浮かぶほむらのイメージと声。

暁美ほむら「まどか」

まどかの脳裏に、先ほどよりも強く浮かぶほむらのイメージと声。

鹿目まどか「あ………ほむら、ちゃん……？」

7 淘汰の時

空気が張り詰め、強力な結界が現れる。戦おうとするまどかとさやかに杏子。しかし、またもティルフィングが苦しみを始めた。心配し、声をかけようとする3人の前に驚くべき光景が現れる。

鹿目まどか「なんで……ティルちゃん？ 2人いるの？」

同じ背丈、同じ顔、同じ声のもう一人のティルフィングを目の前に困惑する3人。

ティルフィング「さ、下がつて下さい。あれはもう一人の私。私のイミテーションです！」

そこにまたもキユウベえが現れた。キユウベえ「さあ、いよいよ始まるよ。

たち。そこでは、魔女がホールを閉ざそうとしている。

佐倉杏子「早く行きな！」

美樹さやか「ここはあたしたちが食い止めるから」

鹿目まどか「ほむらちゃんたちを助けてあげて！」

決意を持ち、飛び込もうとした時……ティルフィングの脳裏に記憶がよぎる。

暁美ほむら「行つて！ まどかたちに伝えて！」

よぎる記憶に、なぜこの世界にきたのか、本来の目的も含めて全て思い出したティルフィング。

ティルフィング「世界を救うには、あなたたちの力が必要なんです」

10 メッセージ

全てを思い出したティルフィング。ほむらから託されたメッセージをまどかたちに話し始める。

ティルフィング「……私は2つの世界を救うためにここに来ました」

まだティルフィングの言葉を理解で

「淘汰」の時が

8 思い出して

イミテーションと呼ばれる、自分と全く同じ姿をしたもう一人の自分に勝利したティルフィング。呼吸を整え、一言一言自分の記憶をみんなに話しながら。

ティルフィング「……私はユグドラシルと呼ばれる世界から来ました。そして、その世界に皆さんの仲間が迷い込んでいます」

鹿目まどか「仲間？」

お互いの顔を見合わせながら理解ができない様子のまどかたち。

ティルフィング「この街の魔法少女は……皆さんだけですか？」

はっ！と思いついた顔をするまどかたち。

鹿目まどか「……ほむらちゃんと、マミさんだ」

美樹さやか「そうだ……」

なぜ2人のことを忘れてしまったのか。理解ができない3人はキユウベえ

きないまどかたち。

ティルフィング「私たちの世界に迷い込んだほむらさんたちも、ワルブルギスの夜と戦いました。けれども、私の世界を壊滅させ、この世界を崩壊させた」

ティルフィング「ほむらさんは時間を逆行し、私に託したんです」

ほむらからの言葉を噛み締めながら話すティルフィング。時間は逆行されたが、向こうの世界でワルブルギスの夜を食い止めたことまたこの世界も崩壊する。まさに、これこそがほむらのメッセージだった。

ティルフィング「私と一緒に……来てもらえますか？」

当たり前と言わんばかりの表情を浮かべながら、デイメンションホールに飛び込む一同。

美樹さやか「マミさんも戦ってる」

佐倉杏子「行こうぜ。世界を救ってやろう」

鹿目まどか「行こう、みんな！」

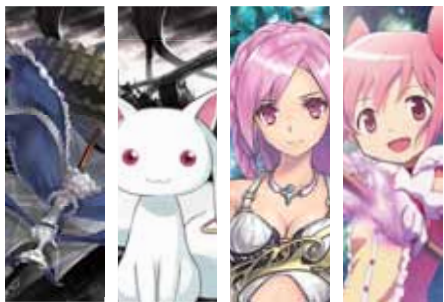
〽〽ワルブルギス編へ続く〽〽



# EPISODE 03

## ワルプルギス編

### ユグドラシル



#### 1 数日前のフアントムオブキルの世界へ

デイモンシオンホールに飛び込んだティルフィングとまどかたち。今までに感じたことのない世界の中で目を見ました。

ティルフィング「無事にユグドラシルについてようです」

自分の世界を認識し、状況をまどかに説明するティルフィング。

鹿目まどか「綺麗な場所……この世界に、ほむらちゃんたちがいるのね？あれ？」

一緒に来たはずのさやかと杏子とはぐれてしまった2人。一方、さやかと杏子も無事にこちらの世界へ来たようだ。

美樹さやか「まどかー！ティルちゃん」

佐倉杏子「うー、腹減ったあ。なんか喰わしてくれ！」

その時、辺りに異族たちが現れた。突然の敵の登場に戸惑う2人。そこへティルフィングが現れた。

ティルフィング「ここは私に任せてく

ださい！」

戦いに勝利したティルフィングだが、見たことのない服を着ている。

ティルフィング「あなたたちは……前にどこでお会いしましたか？」

佐倉杏子「……さやかこいつ、あたしたちが知ってるティルフィングじゃないぞ」

緊迫し始めた状況の中、ティルフィングは運命の時を迎える。

ティルフィング「皆さん……来ます。私のイミテーションが」

#### 2 絶対原則

さやかと杏子と一緒にいるティルフィングの前に、まどかと制服姿のティルフィングが現れる。

美樹さやか「まどかー」

まどかを発見して喜ぶ2人だが、制服姿のティルフィングに驚く。

美樹さやか「ティルちゃんか……」

鹿目まどか「2人？」

混乱する3人の横で、2人のティルフィングは臨戦態勢に入り、そして戦

い始めた。

制服姿のティルフィング「あれはもう一人の私です。私はあなたを淘汰する！」

壮絶な死闘のあと、生き残ったのは制服姿のティルフィングだった。そして、トドメをさす。

制服姿のティルフィング「安心して、逝きなさい」

同じ姿をした者同士が戦い合う淘汰。その様子を見てまどかは悲しみの表情を浮かべる。

鹿目まどか「そんな悲しい生き方、辛くはないの？」

さらに戸惑うまどかに突如キュウベえが現れ、淡々と話し始める。

キュウベえ「彼女は永遠に戦い続ける。淘汰の過程で生まれるエネルギーは、魔法が生み出すエネルギーを凌駕する。よかつたじゃないか。君たち魔法少女の代替エネルギーが見つかったんだ」

悲しむまどかに、ティルフィングは無理に笑顔を作り、ほむらを探しに行こうと告げるのであった。

#### 3 イミテーション再び

一方、ほむら、マミ、デュリン、そして元のティルフィング一同。彼女たちは、お菓子を食べはしゃいでいた。一人浮かない顔のほむらを除いて。

デュリン「おいしーい！マミの淹れる紅茶も最高！」

バマミ「でしよ？ほら、曉美さんも食べて」

曉美ほむら「……ええ」

力なく返事をするほむら。そんな中不穏な音が鳴り響き、辺りに鋭い気配が張り詰める。現れたのは、まどかたちと制服姿のティルフィングだった。

鹿目まどか「ほむらちゃん！マミさん！」  
しかし、ほむらとマミはまどかたちが誰なのか判別できてない様子だ。お互いの記憶と認識が入れ違う5人を横目に、まともティルフィングの淘汰が始まる。

制服姿のティルフィング「あれは正確には数日前の私。行きます！」

勝利したのは制服姿のティルフィング。ほむら、マミといったティルフィ

ングは消滅してしまった……。激昂するほむらとマミ。そこにまどかが割って入り、語り始める。

鹿目まどか「ほむらちゃん、思い出して。私はあなたに呼ばれてきた。あなたとマミさんは……魔法少女よ」

その言葉にはほむらとマミの何かが反応し、かつて魔法少女だった頃の記憶が脳裏を過る。

曉美ほむら「まどか……」

#### 4 真実

記憶が戻ったほむらとマミ。イミテーション、淘汰……理解しがたいことばかりの中、ティルフィングが語り始める。

ティルフィング「もうじきこの世界は、ワルプルギスの夜によって崩壊へと導かれる」  
驚く一同。

ティルフィング「ワルプルギスの夜は、デイモンシオンホールをこじ開け、皆さんが元いた世界も破壊するんです。私はその状況をこの目で見たんです。

しかしほむらさんの能力で、時を遇ったのです。それをまどかさんたちに伝えるために……」

制服姿のティルフィングは瀕死に追い込まれた未来のほむらが送り出した一つの希望だった。まどかに助けを求める言伝を渡し、彼女を過去に遡らせたのだ。

鹿目まどか「未来のほむらちゃんからのメッセージ、ちゃんと受け取ったよ。だから私たち……この世界に來たんだ」  
晓美ほむら「……バカ。私が助けに來てなんて、言うはずがない」

照れているのか、強がっているのかわからないほむら。そして、少女たちはデイモンシオンホールへ。ワルブルギスの夜との戦いへ向かうのであった。

#### 5 ワルブルギスの夜

暴風音と地鳴りが鳴り響き、辺りには強大な結界が張られていく。

巴ミ「最悪で、最強の、魔女よ」

ティルフィング「私は、あれがこの世界を滅ぼすのを見たんです」

莫大な因果を背負ったティルフィング。彼女の力は、ついにワルブルギスの夜を殲滅させた。

ティルフィング「皆さん、今です！」

デイモンシオンホールに飛び込むように促すが、まどかはじつとティルフィングを見つめている。

鹿目まどか「……私、この世界に残るよ。このままじゃ帰れない。キラープリンセスにもきつと救われる方法があると思うんだ。みんなは行つて。私は、大丈夫だから。行つて！」  
晓美ほむら「行けるわけじゃないでしょう！まどかを置いて、行けるわけないわ。あなたがいない世界なんて、私にとって意味はないの。あなたが残るなら、ここが私の生きる世界よ」

さやか、マミ、杏子も同じように頷きこの世界に残ることを決意する。安堵なのか、決意なのか、ほっとした空気が流れ始めた瞬間……デイモンシオンホールから激しく閃光が走り、強風が吹き荒れた。

美樹さやか「えっ？」

佐倉杏子「おい！なんだよ！？」

世界を崩壊させていくワルブルギスの夜。その巨大な力に少女たちは立ち向かっていったが、圧倒的な力に翻弄されてしまった。そして、またも絶望的な危機の時にキュウベえが登場する。

キュウベえ「無理だよ。そう簡単に勝つてもらっちゃ困るんだ」

美樹さやか「何言ってるのよ！」

キュウベえ「自分自身を淘汰し続けたキラープリンセスと魔法少女の呪いを受け止め続けたワルブルギスの夜。この2つがぶつかり、キラープリンセスが消滅する時……僕たちインキュベーターは、かつてない膨大なエネルギーを手に入れるんだ」

キュウベえの本当の狙いを知る一同。キュウベえ「お手柄だよ。ほむらが時を駆ける能力で、ティルフィングに因果率を収束させてくれた」

#### 6 ティルフィングの決意

再びワルブルギスの夜に立ち向かう一同。またもや瀕死の状況に追い込まれ立ち上がることもままならない。

デイモンシオンホールに吸い込まれていくさやかと杏子。戸惑う一同。キュウベえ「この次元が君たちを拒絶し始めたんだ。ここは本来、君たちがいる世界ではないからね」

ほむらとキュウベえも吸い込まれていく。必死でこらえるまどか。  
鹿目まどか「う、ううう……ティルちゃん！」

デイモンシオンホールの力には敵わず……  
鹿目まどか「私たち、いつかまた会えるよね！」

ティルフィング「はい!!」  
鹿目まどか「約束だよ！」

ついにデイモンシオンホールに吸い込まれ姿が見えなくなるまどか。  
ティルフィング「ありがとう……まどか……ちゃん……」

デイモンシオンホールが閉じ、辺りは何事もなかったような落ち着きを取り戻した……

#### 8 エンディング

巴ミ「どうして……勝てないの」  
鹿目まどか「ほむら、ちゃん……」

絶望的な状況の中、ティルフィングが何かを悟つたように語り始めた。

ティルフィング「私がほむらさんの代わりに時を超えた理由がようやくわかりました」

決意を込めた表情のティルフィング。

ティルフィング「あまたの呪いを受け続けた魔女には、その呪い以上に淘汰を重ね莫大な因果を背負っている私しか勝てない……私が倒します」

ワルブルギスの夜が、いよいよデイモンシオンホールをこじ開けようとしている。もはや猶予は一刻もない。

ティルフィング「私が皆さんを、無事元の世界に帰します」

鹿目まどか「ティルちゃん」

ティルフィング「ありがとう……まどか……ちゃん」

#### 7 世界の拒絶

あまたの想い、悲しみ、祈りという

元の見滝原の世界に戻ったまどかたち。  
鹿目まどか「閉まっちゃったね」  
晓美ほむら「うん」

巴ミ「これから、どうします？」

佐倉杏子「とりあえず、飯だろ、飯」

美樹さやか「お風呂入ってゆつくりしたーい！」

キュウベえ「やれやれ。こんな結末になるとは」

一方のティルフィング。変わらず、異族と戦い続けている。

ティルフィング「もう、誰も絶望する必要なんてない。私たちが救ってみせる」  
ティルフィングとまどか、それぞれの世界で同じ言葉を発していた。

ティルフィング&鹿目まどか「魔法少女も、キラープリンセスも、悲しみに満ちた存在だ……私たちは戦う。それが、キラープリンセス（魔法少女）として生きる……私たちの祈りだから！」

戦い続けなければならないという同じ宿命を持った少女たち。それぞれの世界で、お互いのことを心に刻みながら、また、彼女たちは戦い続けるのであった……



対談  
今泉潤  
×  
三上公也

## まどかたちが『ファンキル』の世界に 降り立つまでの6ヵ月を語る

国内外を問わず高い人気と注目を集める大ヒットアニメ『魔法少女まどか☆マギカ』。そのキャラクターや設定を活かし、『ファントムオブキル』とのコラボレーションという形で『まどか☆マギカ』の新しい物語を生み出した2人の仕掛人に、開発秘話を語ってもらった。

クリエイティブディレクター

三上公也

MIKAMI KUNYA

博報堂DYメディアパートナーズ  
入社後、番組企画・プロデューサー業務に携わり一方でクリエイティブ角型でのゲームやアニメ、新コンテンツのプロデュースなどオールジャンルの企画を実現。でん組.incのファンキルCMも手がけた。



ゲームプロデューサー

今泉潤

IMAZUMI JUN

押井守監督のOP、200万DL突破など話題となった大ヒット作『ファントムオブキル』やモバイルオンラインゲーム『任侠道』(監修)『ドラゴンクエスト』などのタイトルをプロデュースしたFuji&gumi Games エグゼクティブプロデューサー。

——『魔法少女まどか☆マギカ』とのコラボレーションは、どのような経緯で実現したのですか？

今泉 『ファンキル』は、これまでもでん組.incとのコラボ経験があるのですが、その際も「メジャーだけどコア」な相手と、というこだわりがありました。『ファンキル』自体も世界観やゲーム性の部分でコアなところが魅力なので、コラボレーション相手にも尖った部分があり、と考えていたのです。『ファンキル』はアニメと親和性が高く、とくに『まどか☆マギカ』は戦う宿命を持った少女たちという部分でも共通したところがある。それで、ぜひコラボしたいと三上さんに伝えました。

三上 今泉さんは常日頃いろいろなやりとりをするんですけど、「これとコラボしたい」と無理難題を出されることがけっこう多いんですよ(笑)。そこで、どうやってコラボを実現させるか。どういうコラボをするのを楽しんでもらえるかを考えるのが僕の

「まどか☆マギカ」の世界観とどう向き合い「ファンキル」のなかでどう見せるか

chapter.

01

## Interview

コラボストーリー開発秘話  
スペシャルインタビュー

『ファントムオブキル』の  
新章はどのようにして生まれたのか。  
6ヵ月に渡るプロジェクトの裏側に迫る。

# 「新しい何かが始まるぞ」と

## 思ってもらえるようなものにしたかった（今泉）

仕事ですね。そこで『まどか☆マギカ』のライセンスを持つアニプレックスさんに話を持っていて、打ち合わせの約束を取り付けて……という感じで進んでいきました。

——新規の書き下ろしシナリオ、フルボイスという豪華なコラボになりました。

今泉 アニメとモバイルオンラインゲームのコラボってよくあるじゃないですか？そのなかでもやっぱり『まどか☆マギカ』はすごく人気のある作品なので、『絵を借りてくるだけ』みたいなコラボもけっこう見かけていて。実際、ただ収益を上げるだけなら、有名人を連れてきてCMを放送したり、イラストだけ借りてくればいいのかもしれない。だけど、僕はただ乗っかるだけのコラボにはしたくなくて。

三上 当初アニプレックスさんは、『ファンのために世界観を壊したくない』と難色を示されたんですよ。それでも、こ

らの考えを丁寧に説明したところ、「新しい物語を作る際に、世界観を崩さないスピンオフであれば、ファンの方にも喜んでもらえるかもしれないので」と許可を出してくださって。

今泉 今のところスマートフォン画面内で表現するしかない『ファンキル』の世界を、『まどか☆マギカ』という外の力を借りてイメージを画面の外にも膨らませる。僕は、そのためのコラボレーションだと考えているんですね。さらに『ファンキル』のユーザーだけでなく、『まどか☆マギカ』のファンの方にも、『新しい何かが始まるぞ』と思ってもらえるようなものにしたかった。そのためにいろいろ要望を出して、断られてしまったものもありますけど、8割くらいは実現しましたね。

三上 しっかりしたものが作れないなら、『まどか☆マギカ』のファンにも『ファンキル』のユーザーにも失礼だから、それは

やりたくないという今泉さんの姿勢はずっとブレませんね。『まどか☆マギカ』をリスペクトして消化し、しっかりゲームとしてまとめてくれました。監修してくれたアニプレックスさんにも『まどか☆マギカ』でここまでやったコラボは今までなかった』と言っていたかったです。

監修を受けて原作の絵に近づいたキャラクターや武器のグラフィック



——グラフィック

の制作や戦闘シーンの演出はどのようになされたのでしょうか。

三上 最初は『まどか☆マギカ』の新作のように受け取られるといけな

作りました。

——見滝原中学校の制服を着たティルフィングも、ここで見られませんか。

三上 袖口や襟元のラインの太さなど、細かく監修していただきつつ進めていきました。基本的にはスムーズに進みましたけど、まだかたちと並ぶとティルフィングと頭身のバランスが違いすぎて、その調整は少し悩みましたね。最終的に、外国人が転校してきた、みたいな感じになっています（笑）。



今泉 シナリオのなかでも「帰国子女で記憶喪失なん

でキャラ立ちすぎ

だろ！」って美樹さやかがいじっている（笑）。そういうセリフも、アニメを観ていた人には楽しんでいたかと思う

——敵のボスとして、ワルブルギスの夜

と、お菓子の魔女の2体が登場します。

三上 この2体は『まどか☆マギカ』のなかでも、見ればわかる馴染み深い魔女だろうと。TVCMにも登場しているのですが、動きの見せ方や笑い声、スケール感にもこだわって15秒のなかでもインパクトを残せるように考えました。

魔法少女とキラープリンセスの設定を絶妙に合体させたシナリオに注目！

——2つの世界観がうまく活かされたシナリオも見どころです。

今泉 ボイス収録のときに、声優さんから『まどか☆マギカ』のどこかの時間軸で、こういう世界があるかもしれないと思えるような世界ですね』という言葉をお願いしました。これは嬉しかったですね。

# 「ここまでやったコラボは今まででなかった」と 言っていただけでした（三上）

今泉 3Dでは戦闘シーンにこだわりました。スキルの演出は、原作の動きや表現をなるべく反映させています。ただ、アニメの画面に映っていないアクションは新たに考えないといけないので、こちらで作ったものを監修していただきながら

三上 「戦い続けなければいけない」という魔法少女の宿命と、キラードプリンセスたちの境遇がすごく似ているんですね。もちろんキュゥべえも元のキャラクター性そのままに描かれています。

今泉 あと、『ファンキル』はキャラクター同士の親密度という数値があって、親密度が最高になると今回連携スキルという技を覚えることができるんですが、そこでも、まどかとほむらのキャラクターをしっかりと描いたと思います。このコンビスキルを使わないと、ボス戦はほぼ勝てません。この機能自体『まどか☆マギカ』とのコラボのために作ったと言っても過言ではないかもしれません（笑）。

——今回担当された仕事のなかで、特に観てほしいという部分は？

三上 僕としては、CMの15秒でどれだけ『まどか☆マギカ』ファンの皆さんを驚かせるかを考えました。最初に書いたコンテのなかでワルブルギスの夜や、お菓子の魔女を出したときは、今泉さんたちスタッフから「ここまでやっていいの？」と言われましたね（笑）。事前にこういうグラフィックを作るか、という動きを

するかまで考えて、「これくらいしっかり作ります」と説明して話を通しました。魔女の迫力のほかにも、大事なのは助けに来てくれるまどかたちをどう見せるか。観た人にしっかり伝わるわかりやすさと、こだわった部分の作りこみを両立させるように意識しています。

今泉 僕は、コラボシナリオのクリエイティブで、まどかとティルフィングのセリフがシンクロするところですね。

三上 監修を受けるなかで何度か修正したところですよ。

今泉 全3章で、シナリオは作家の方に書いてもらっているんですが、最後のシーンのリテイクは自分で書きました。結果的に「このセリフのために3章までのシナリオがある」というくらい、きれいにまとめられたと思います。

——最後に、この『バイブル』を読んでい



る読者の方にメッセージを！

三上 これだけ中身にこだわったコラボレーションだったので、裏側をまとめたいと思ったのが『バイブル』を作ることになった。約半年の制作期間のなかで、『まどか☆マギカ』とコラボした新章がどのように生まれたのか。「このシーン、こんなふうに来ていたんだ」「こんなところまでこだわったんだ」と驚きながら読んでもらえるような、僕らの汗と努力の集合体になっています。

『バイブル』と『ファンキル』を楽しんでいただけたら嬉しいです。

今泉 もったいないことにゲームは3週間しかプレイできないのですが、このコラボイベントを形として残したいという気持ちがこの本に詰まっています。コラボ期間終了後も、読み返して思い出してもらえたら嬉しいですね。これからも世界観やキャラクター、ドラマ性を大事にしながら『ファンキル』を作っていきますので、どうぞよろしくお願いします。

chapter.

02

## CM Production Note

CM 制作の裏側

単なるゲームのコラボではなく、  
新しい物語の誕生として。少女たちの  
出会いを描く15秒間に込められた情熱。



“新章”のCMは、  
こうして作られた—

15秒間で何を伝えるか。TVCMでは伝えるメッセージを絞らなければなりません。ただ、今回のコラボレーションは、オリジナルのストーリー、描き下ろしキャラ、フルボイス…などなど、伝えたいことがたくさんありました。大切にしたのは、『ファントム オブ キル』、『まどか☆マギカ』のファンが見た時に驚いてもらえること。そのために、まず追求したのは圧倒的な世界観とリアル感です。『ファントム オブ キル』の象徴でもある巨大なユグドラシル。そこに圧倒的な迫力と世界観で迫る、世界を飲み込む恐怖のインパクトを持ったワルブルギスの夜。ワルブルギスの夜の巨大な恐怖感を追求するため、誰も見たことのない重量感のある画を、フルCGで作り上げるしかないと考え、挑戦しました。さらに、アニメとはまた違うウィットでありながら、特徴ある存在のお菓子の魔女。『まどか☆マギカ』だと一瞬でわかるその姿と動きを表現するために、何テイクも描き直しをしました。今回のCMでは象徴的なキャラクターとして登場しています。ま

た、「音の力」もこだわったポイントです。ゲームのCMではまずゲームの中身を伝えることが大前提。そのCMにインパクトを残すため工夫しているのは「音」、それから「コピー」です。音とコピーがCMに力を吹き込んでくれます。今回のCMをさらに素敵に力強くしてくれたのは、『まどか☆マギカ』のオリジナル声優の方々。鹿目まどか役の悠木碧さん、曉美ほむら役の斎藤千和さん、キュゥべえ役の加藤英美里さんが、ティルフィングたちを助けに登場するシーンのために、それぞれのキャラクターのトーンでセリフ収録をしてくださいました。15秒という短い映像の中で一つ一つのカットにこだわり、それぞれが深く重い意味を持ったものになっています。ゲーム画面の再現性にもびっくりしてもらえるのではないのでしょうか。「魔法少女とキル姫の新たな戦い」「新章はじまる」というコピーも、期待感の高まりを追求して開発しています。こういったこだわりのポイントにも注目しながら、ぜひもう一度CMを見てみてください。—— 三上公也



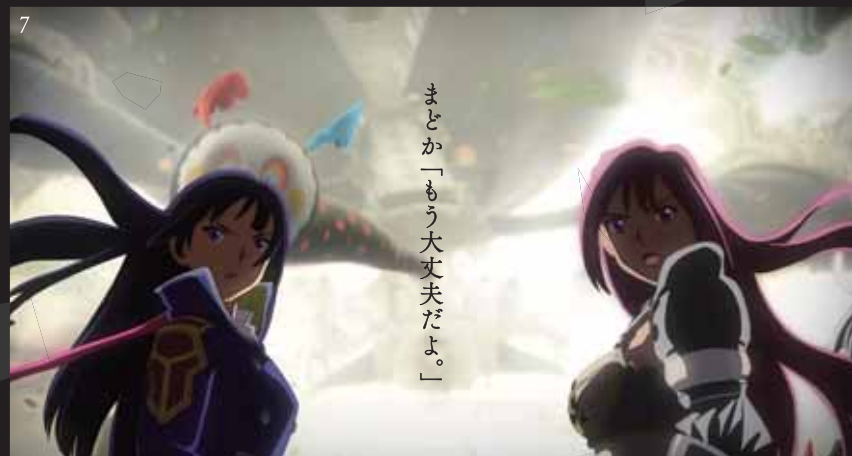




ティルフィング「そんな…」



その日、2つの時空が混じり合い



魔法少女とキル姫の新たなる戦い



新章はじまる



絶望が訪れた...



# 01

## 鹿目まどか

[ かなめ・まどか ]

どこにでもいる平凡な中学2年生。  
友達想いで心優しい性格の持ち主。

chapter.

# 03

## Character

物語を彩るキャラクターたち

今回のために描き下ろした

『まどか☆マギカ』のキャラクターたちを紹介。

アニメの世界観を踏襲しながら、  
いきいきと描かれた表情も見どころ。



# 03

## 暁美ほむら

[ あけみ・ほむら ]

まどかの通う中学校に転校してきた少女。  
容姿端麗、成績優秀、スポーツ万能。クールな性格。  
魔法少女のようだが、その言動には謎が多い。



# 02

## アルティメット まどか

[ あるていめっと・まどか ]





# 05

## 美樹さやか

[みき・さやか]

まどかのクラスメイト。  
いつも元気で活発な性格で、  
まどかとは大の仲良し。



# 04

## 巴マミ

[ともえ・まみ]

まどか達の通う中学校の3年生。  
面倒見の良いお姉さんの存在。  
キュゥベえと契約した現役の魔法少女。







07

## キュウベえ

[きゅうべえ]

少女の願い事をひとつだけ叶えてくれる  
魔法の使者。



06

## 佐倉杏子

[さくら・きょうこ]

マミの縄張りを狙い、別の町からやって  
きた魔法少女。いつも何かを食べている。  
周囲の被害を鑑みない利己主義者。



09

## 舞台装置の魔女

[ぶたいそうちのまじょ]  
(通称・ワルブルギスの夜／本名不明)

その性質は無力。回り続ける愚者の象徴。

歴史の中で語り継がれる謎の魔女。

通称・ワルブルギスの夜。

この世の全てを戯曲へ変えてしまうまで

無軌道に世界中を回り続ける。

普段逆さ位置にある人形が上部へ来た時

暴風の如き速度で飛行し瞬く間に地表の文明を  
ひっくり返してしまう。



08

## お菓子の魔女

[おかしのまじょ]

その性質は執着。欲しいものは全部。

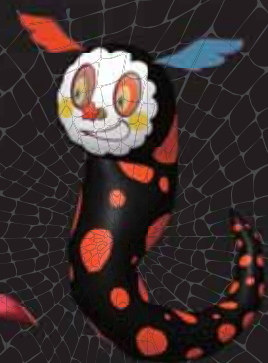
絶対に諦めない。お菓子を無限に

生み出せるが大好物のチーズだけは

自分で作ることができない。

チーズさえ持っていれば簡単に隙を

つくことができたろう。





chapter.

04

## Scenes

ゲームの舞台設定

ゲームの中には、

アニメでお馴染みのシーンが次々に登場。

アニメとシンクロするストーリーを

より鮮やかに演出する舞台設定となっている。

# 10

## ティルフィング

[ ているふいんぐ ]

呪われた魔剣「ティルフィング」の名を持つキル姫。従順で意志が強く、真面目。少々頑固な一面も。



## 見滝原市 通学路

02



キュウベえとティルフィングが会える通学路。  
アニメでもまどかたちが仲良く通学する姿が描かれている場所。

## 見滝原中学校の教室

01



机と椅子が並ぶ教室風景。担任の先生の話や  
まどか、さやかの会話はアニメの冒頭シーンを思い起こさせる。



## お菓子の魔女の結界



アニメで大きな話題を呼んだ、お菓子の魔女とマミの  
決闘シーンの舞台。かわいらしくも不気味な世界観を再現した。

## ワルプルギスの夜との戦いの舞台



アニメの中でほむらが繰り返し戦ったシーン。  
ゲームでも、暗く絶望的な印象に仕上がっている。

## あとがき



最後までこの『バイブル』を読んでくださり、

ありがとうございました。

『ファンキル』と『まどか☆マギカ』の

コラボレーション、

そして制作の裏側を楽しんで

いただくことができたでしょうか。

コラボイベント期間は終了してしましますが、

この本をいつかもう一度手にとって、

ティルフィングとまどかたちの物語を

思い出してもらえることを心から祈っています。

そして、これからの

『ファンキル』にもどうぞご期待ください。



